

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算 支出科目 款：警察費 項：警察活動費 目：一般警察活動費

事業名【新】AI議事録整備費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

警察本部 情報技術企画課 電話番号：058-271-2424(内2411)

E-mail：c18874@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 6,611 千円 (前年度予算額： 0 千円)

＜財源内訳＞

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	6,611	0	0	0	0	0	0	0	6,611
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

令和4年4月に導入した音声自動文字起こしシステムが令和9年3月末にライセンス有効期限を迎える。

同システムは長時間の作業時間を要する会議、研修等における文字起こしを短時間かつ正確に実現するシステムであり県警察の業務の合理化・効率化には必要不可欠である。

よって、県警察全体の業務の合理化・効率化実現のためシステムを更新する。

(2) 事業内容

- システムをスタンドアロン方式からクライアントサーバ方式に更新することにより県下全域で文字起こし業務を合理化・効率化のほか、「岐阜県温室効果ガス排出抑制率先実行計画」の取組における「自動車の燃料使用量の削減に関すること。」、「省エネルギーの推進に関すること。」等に寄与
- 長時間の作業を要する文字起こし業務の合理化・効率化により、県民サービスの向上に直結する付加価値の高い業務へのシフト
- 会議・研修等をリアルタイムで文字起こしすることによる業務の合理化・効率化
- 新たに「議事録要約機能」を追加することによる業務の高度化

(3) 県負担・補助率の考え方

県警察業務の効率化・高度化に資するものであるとともに、「岐阜県温室効果ガス排出抑制率先実行計画」に沿い、庁内会議におけるペーパーレス化を実現するものであることから、県負担が妥当である。

(4) 類似事業の有無

知事部局におけるA I 議事録システムの導入

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	2,211	作業費（設計費、設定費、現地試験、教養等）
その他	4,400	ハードウェア（マイク、スピーカー等）
合計	6,611	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・岐阜県デジタル・トランスフォーメーション推進計画
- ・岐阜県温室効果ガス排出抑制率先実行計画

(2) 国・他県の状況

- 知事部局
ProVoXTをクラウド環境下で運用中
- 他県警察
全国25都県警察において導入済、14府県警察において導入予定。
他都道府県警察（宮城、静岡、高知、熊本県警察等12県警察）等においては株式会社アドバンストメディアが提供する「Ami Voice Scribe Assist」を導入、運用中

(3) 後年度の財政負担

- ・システム使用料及び保守料が後年負担として発生する（年間1,848千円）。

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・事業主体 岐阜県警察
- ・妥当性 岐阜県警察職員が利用するものであり妥当

事業評価調書（県単独補助金除く）

■ 新規要求事業

□ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

令和4年4月から音声自動文字起こしシステムの運用を開始し、年間約580回使用されているものの、県警察本部管理のスタンドアローン型であることから遠距離警察署での使用が低調である。

令和9年度にクライアントサーバ型に更新することにより距離、時間等の制約問わず県下全所属でのシステムの利用を浸透させ、より一層の業務の合理化・効率化を推進する。

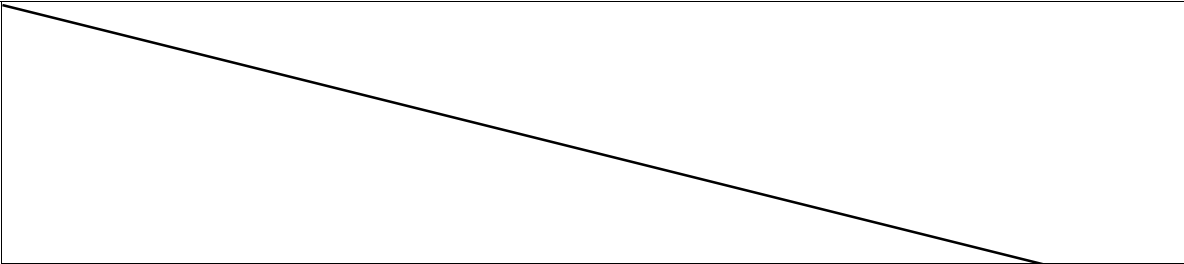
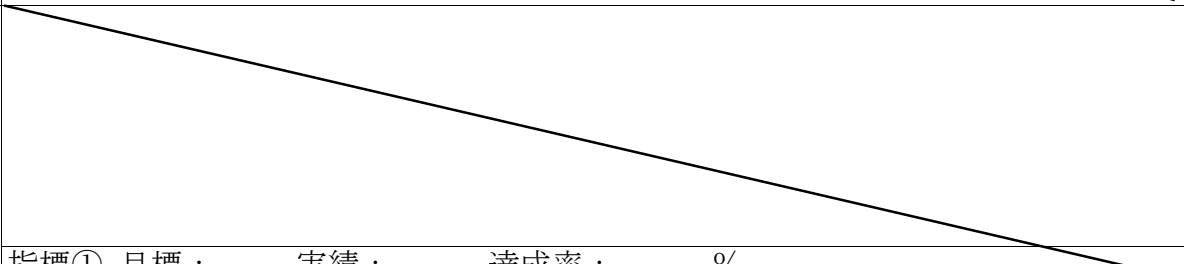
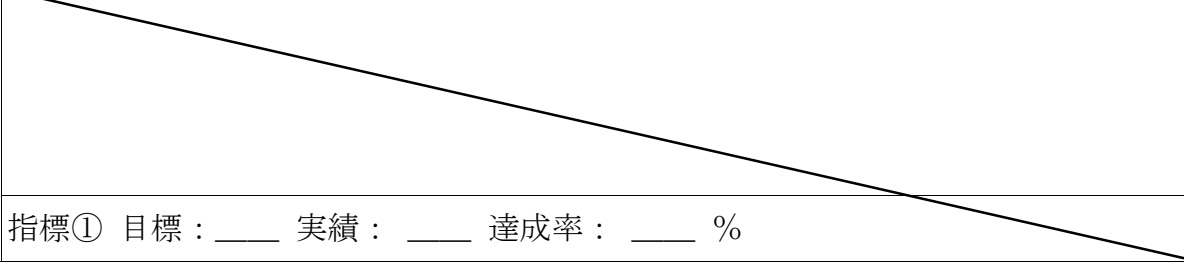
（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

会議等の規模によってはシステムを利用しない場合があるため使用回数等による指標設定は困難

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	 <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和5年度	 <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和6年度	 <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	警察対象事象が多様化している社会情勢等を踏まえ、文字起こし等の単純・定型作業をシステムにより合理化し、県民が真に望むパトロール等の外部執行時間を確保する必要性が認められる。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 3	文字起こし等の単純・定型作業をシステムにより合理化し、削減した時間でパトロール等の外部執行時間が確保され、県民市民に警察活動を見せる機会が増加する等の成果が挙げられている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	システム利用回数の向上、会議及び研修のみならず捜査活動にもシステムが活用されており事業の効率性が上がっている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 システムがスタンドアローン型があり遠距離警察署の利用実績が低調である。 システムが1台のみであり会議、研修等が重複するとシステムが利用できない。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 音声自動文字起こしシステムは業務の効率化、高度化の実現、岐阜県DX推進計画の目標を達成するため、システムを更新し、事業を継続する必要がある。 課題の解決策として令和9年度にクライアントサーバ型に更新することにより距離、時間等の制約問わず県下全所属でのシステムの利用を浸透させ、より一層の業務の合理化・効率化を推進する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	